

大雪山の火山活動解説資料（平成31年2月）

札幌管区気象台
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 噴気などの表面現象の状況（図1-①、図2）

監視カメラによる観測では、悪天のため噴気の観測ができた日は数日しかありませんでした。確認ができた範囲では、旭岳地獄谷爆裂火口の噴気の高さは火口上100m以下で、噴気活動は低調に経過しました。

・ 地震及び微動の発生状況（図1-②）

火山性地震は少なく、地震活動は低調に経過しました。
火山性微動は観測されませんでした。

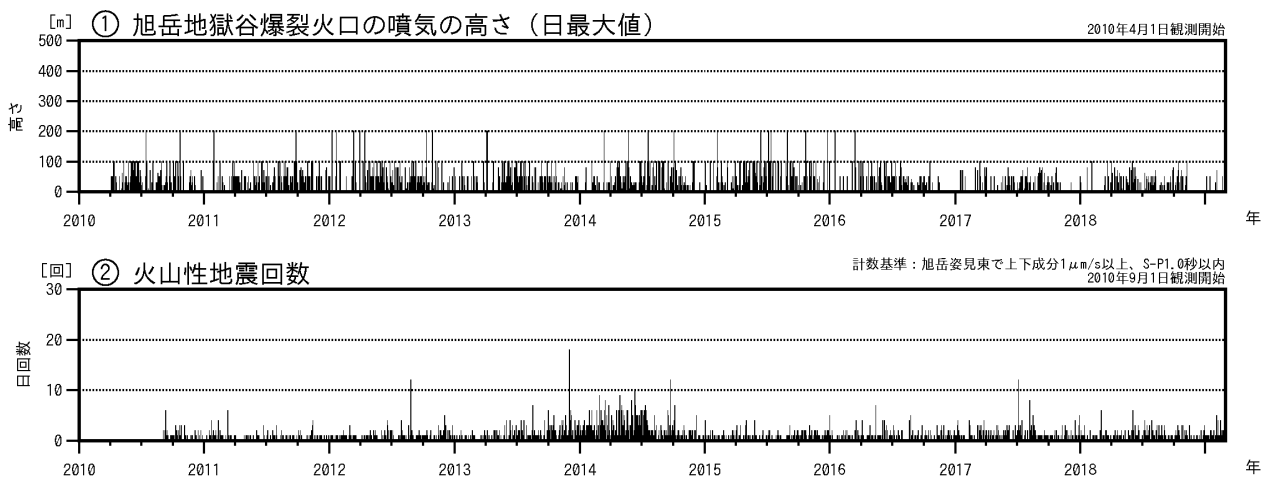


図1 大雪山 火山活動経過図（2010年4月～2019年2月）

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この火山活動解説資料は札幌管区気象台のホームページ(<https://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ(https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)でも閲覧することができます。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平29情使、第798号）。

次回の火山活動解説資料（平成31年3月分）は平成31年4月8日に発表する予定です。



図2 大雪山 西側から見た旭岳の状況 (2月19日、忠別湖東監視カメラによる)

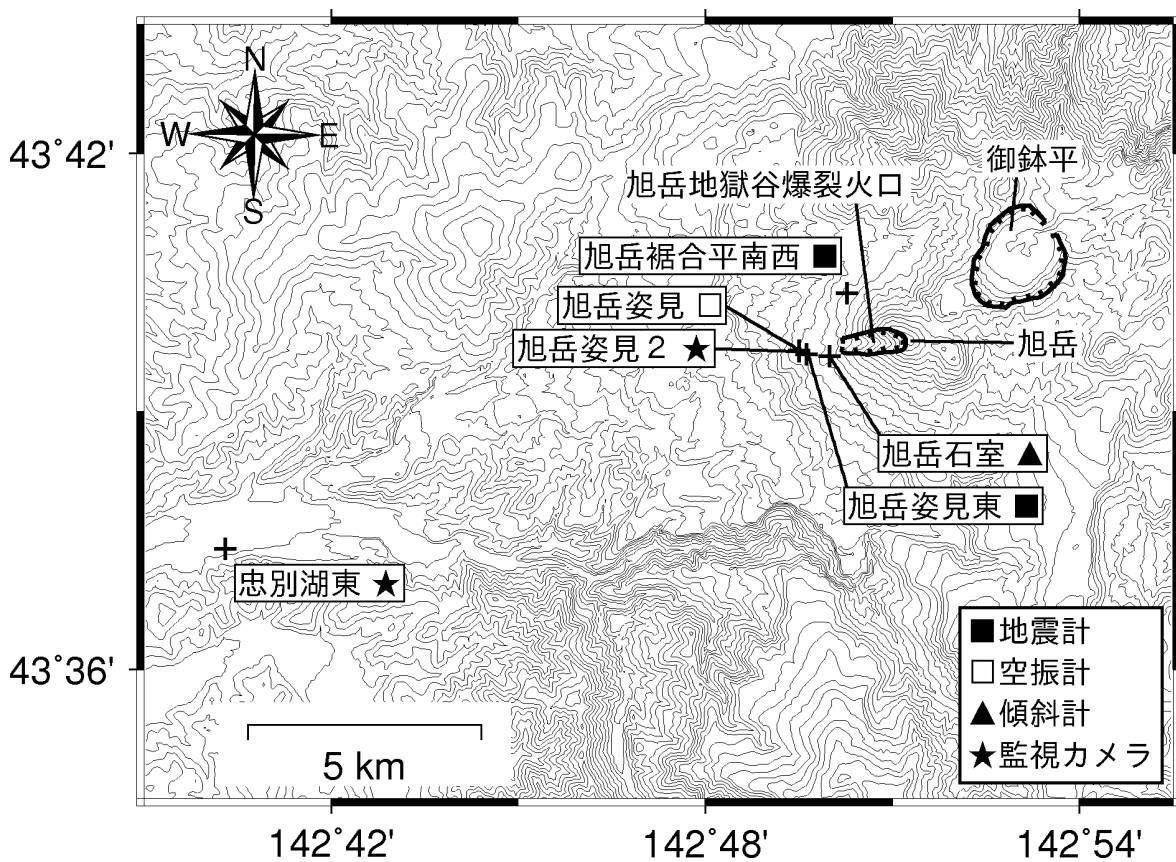


図3 大雪山 観測点配置図
+印は観測点の位置を示します。